

日作協発第 887 号
2024 年 2 月 26 日

厚生労働省 医政局 医事課
試験免許室 御中

一般社団法人 日本作業療法士協会
会 長 山 本 伸 一



第59回作業療法士国家試験問題について（意見）

謹啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より当協会の活動にご支援ご協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、2月18日に実施されました第59回作業療法士国家試験問題につきまして全国の作業療法士学校養成施設に問題の妥当性についてアンケート調査を実施しましたところ、205校(215課程)中127校62%から「適切でないと思われる」とする回答がありましたので、それらの回答について次の3つの方針に基づいて検討を行いました。

- (1) 全国の作業療法士学校養成施設から寄せられた「国家試験として適切でないと思われる問題」のみを検討の対象とすること。
- (2) 当協会担当部署においてさらに検討を重ね、「国家試験として適切でないと思われる問題」に限定して意見を具申すること。
- (3) 国家試験問題の範囲や難易度についての意見を具申するものではないこと。

その結果、設問内容の適切さ及び出題形式（図や設問の説明）について下記の意見を述べさせていただきます。また、特に検討していただきたい4問題（午前3問題、午後1問題）につきましては、別紙に内容を記載し、併せて具体的な理由を付記いたしました。

ご検討の程よろしくお願い申し上げます。

謹 白

記

- I 複数の解が選択できると思われる3問題（午前 52、53 午後 27）について、複数の選択肢を正解とすることが望ましいと考える。また、提示された選択肢からは解を選択する判断ができないと思われる1問題（午前 7）について、採点から除外することが望ましいと考える（別添資料 1-1～1-4 参照）。
- II その他の意見
用語や設問の表現が不適切であり選択肢の理解に戸惑う5問題（午前 3、23、59 午後 49、79）、消去法や優先順位等から解は選べるものの他の選択肢も該当する可能性がある2問題（午前 55 午後 71）があると考え。尚、2問題（午前 3、59）の選択肢に誤字が認められたので確認をお願いいたします。

第 59 回作業療法士国家試験問題 採点除外等の取り扱いをすることが望ましいと思われる問題

(令和 6 年 2 月 18 日実施)

午前 問題

問題番号 (52)

52 ミオシンフィラメントが存在するのはどれか。2つ選べ。

1. A帯
2. H帯
3. I帯
4. Z帯
5. 筋 節

解：1、2、5（複数の解が選択できる）

理由

文献1と2より、ミオシンフィラメントは、選択肢「1」のA帯全域にわたっており、選択肢「2」のH帯にも存在している。

また選択肢「5」の筋節は、Z帯からZ帯までを指し、A帯とH帯も含まれている。よって、ミオシンフィラメントは筋節にも存在している。

したがって、選択肢「1」、「2」、「5」の複数の解が選択できる。

参考とする文献

1. 坂井建雄・河原克雅総編集：カラー図解 人体の正常構造と機能, 改訂第2版, 日本医事新報社, p. 106, 2012.
2. 岡田隆夫・鈴木敦子・長岡正範：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野生理学, 第5版, 医学書院, p. 53-55, 2018.
3. 医療情報科学研究所編集：からだが見える人体の構造と機能, 第1版, メディックメディア, p. 406-407, 2023.

午前 問題

問題番号 (53)

53 肩甲骨神経に支配される筋はどれか。

1. 肩甲挙筋
2. 鎖骨下筋
3. 前鋸筋
4. 僧帽筋
5. 菱形筋

解：1、5（複数の解が選択できる）

理由

文献1、2より

選択肢「1」は頸神経と肩甲骨神経に支配されるため正しい。

選択肢「2」は鎖骨下筋神経に支配されるため誤りである。

選択肢「3」は長胸神経に支配されるため誤りである。

選択肢「4」は副神経と頸神経に支配されるため誤りである。

選択肢「5」は肩甲骨神経に支配されるため正しい。

したがって、選択肢「1」、「5」の複数の解が選択できる。

参考とする文献

1. 野村嶺編集：標準理学療法学・作業療法学 基礎分野 解剖学. 第5版, 医学書院. p. 191, 2020.
2. 中村隆一, 齋藤宏, 長崎浩著：基礎運動学 第6版 補訂, 医学書院. p. 220, 2003.

第59回作業療法士国家試験問題 採点除外等の取り扱いをすることが望ましいと思われる問題

(令和6年2月18日実施)

午後 問題

問題番号 (27)

27 呼吸機能で正しいのはどれか。

1. 横隔膜の支配髄節は第3頸髄節である。
2. 安静時の吸気は斜角筋の収縮が作用する。
3. 安静時の呼気は腹直筋の弛緩が作用する。
4. 副交感神経が優位になると分泌物が増加する。
5. 呼吸補助筋の麻痺により閉塞性換気障害が生じる。

解：1、4（複数の解が選択できる）

理由

文献1から7より

選択肢「1」は、第3髄節から第5髄節で横隔膜を支配しているので正しい。

選択肢「2」は、斜角筋は努力性吸気の際に作用するので誤りである。

選択肢「3」は、安静時の呼気時には筋活動は起こらないので誤りである。

選択肢「4」は、副交感神経が優位になると気道の平滑筋収縮が亢進し、粘液分泌が促進されるので正しい。

選択肢「5」は、閉塞性換気障害は、気管・気道の狭窄によるもので、呼吸補助筋は関与しないので誤りである。

したがって、選択肢「1」、「4」の複数の解が選択できる。

参考とする文献

1. 中村隆一:基礎運動学. 第6版補訂, 医歯薬出版株式会社. p. 286, 2003.
2. 岡田隆夫編集:標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 生理学. 第6版, 医学書院. p. 31-32, 2023.
3. 野村巖編集:標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学. 第5版, 医学書院. p. 187, 2020.
4. 伊東元, 高橋正明編集:標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 運動学. 医学書院. p. 388, 2012.
5. 医療情報科学研究所編集:病気が見えるvol. 4 呼吸器. 第3版, MEDIC MEDIA. p. 19, 2021.
6. 医療情報科学研究所編集:からだが見える人体の構造と機能. 第1版, MEDIC MEDIA. p. 223, p496. 2023.
7. 本間研一監修:標準生理学. 第9版, 医学書院. p. 414-415, 2019.

第59回作業療法士国家試験問題 採点除外等の取り扱いをすることが望ましいと思われる問題

(令和6年2月18日実施)

午前 問題

問題番号 (7)

7 23歳の男性。プールの飛び込みで頭部を強打し、頸髄損傷(完全麻痺)と診断された。肘関節屈曲は可能で手関節背屈は強い。円回内筋機能は認め、橈側手根伸筋と上腕三頭筋の機能は認めない。手指完全伸展は不可能。
Zancolliの四肢麻痺上肢機能分類で最上位の機能残存レベルはどれか。

1. C6A
2. C6B I
3. C6B II
4. C6B III
5. C7A

解：解なし

理由

文献1、2より、問題文内の「手関節背屈は強い」と「橈側手根伸筋の機能は認めない」ことは矛盾しており、解を選択する判断ができない。
問題文の「橈側手根伸筋」は「橈側手根屈筋」の誤りであると考えられる。

参考とする文献

1. 能登真一, 他: 標準作業療法学 作業療法評価学. 第3版, 医学書院. p. 325, 2017.
2. Dale Avers, 他: 新・徒手筋力検査法. 第10版, 協同医書. p. 179, 2020.